

# 第 1 回検討部会 意見取りまとめ

---

- 高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会（第 2 回）

検討背景・目的についてのご意見	対応
○調査人数構成別死者数（性別、独居・非独居、要介護認定、疾病、独居・高齢者のみ・高齢者夫婦世帯など）の要件での分析	
○81歳以上の年齢区分の追加	
○グラフの年表示の統一	
○高齢者の死者数の減少に何が功を奏しているのかの分析	
○介護事業者等との連携（介護保険の第1号被保険者（65歳以上）と要支援認定者数及び要介護認定者数の関係の分析）	
住宅火災による高齢者の死者の実態について	
○ストーブの燃料別使用実態	
○高齢者の逃げ遅れの理由の分析	
○「発見が遅れた」「判断力・体力の低下等」の病気・身体不自由の程度、その他とは何かなど、改善策に直接結びつけ難い。	
○高齢者によっては消火器を用いた初期消火を敢えて薦めない（とにかく逃げるよう薦める）方々がいるのではないか。	
○高齢者の住宅火災における問題点等をよりの確に把握できるよう火災報告取扱要領の見直し	
○日常の暖房機器として何を使用しているかの把握	
○喫煙率の分析	
○着衣着火について高齢者に特徴があるとは言えないのではないか	
○時間帯別の死者数グラフの分析の見直し	
○出火原因に係る、それぞれの「着火物」や「経過」についての分析	
○年齢区分を国勢調査等に合わせて見直し	
○割合で示している表については、各グループの母数を追記	
○グラフ毎の関係性が分かるように整理	
○住宅火災により死者が発生した住宅の住宅用火災警報器設置（鳴動）有無	
消防庁の取り組みについて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「住宅防火 命を守る7つのポイント」について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「住宅用火災警報器を設置する。」の義務化を踏まえた見直し</li> <li>・「隣近所の協力体制を作る。」の有効事例の周知</li> <li>・一部の高齢者は高齢者自身での初期消火は行わずに、素早く避難するとする</li> <li>・住宅防災診断の普及と、消防からのアドバイス</li> <li>・「離れる時は必ず消す」に「センサー付コンロを使用する」を追加</li> <li>・早期避難、延焼拡大防止の項目に対応させて、部屋の物を減らす、整理整頓する等を加える</li> </ul> </li> </ul>	
○住宅用火災警報器について継続的なメンテナンス・電池交換などについて、消防機関が対応できるシステム化	△
○住宅用の自動消火装置の推奨	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○住宅防火・防災キャンペーンについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知率の向上</li> <li>・店頭で安く住宅用防災機器を購入できるキャンペーンの実施</li> <li>・高齢者向けサービスを提供している企業の追加</li> </ul> </li> </ul>	

# 議事1：検討背景・目的についてのご意見

NO.	委員ご意見	事務局回答
1	<p><b>65歳以上</b>を高齢者として一律に取り扱うのではなく、<b>要介護認定、独居・高齢者のみ世帯などの要件で分析</b>を加え、住宅防火対策の重点対象者の要件を絞り込んでいくとよいのではないか。また、<b>超高齢化社会に向け、81歳以上の年齢区分をさらに区分</b>してはどうか。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、現状の火災報告データの抽出可能な範囲で、より細分化したデータを今後お示しします。</p>
2	<p><b>高齢者のみの世帯や、高齢夫婦のみの世帯</b>が今後も増えると考えられ、特に火災時の危険性が高いため、そのような実態に応じた対策が必要。<b>高齢者は疾患や障害のある人も多い</b>ので対策が必要。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、アンケートにおいて、日常生活の支障となるような疾病等についても可能な範囲で調査を行います。</p>
3	<p>グラフの年表示に<b>西暦・和暦が混在</b>しているので、西暦に統一をお願いする</p>	<p>今後は、和暦と西暦を併記するようにいたします。</p>
4	<p>高齢化率が増えているため、死者に占める高齢者の割合が増えることは当然、注目すべきは全体の死者数の減少。死者の多くを占める高齢者の比率が大幅に増える場合には当然、全体の死者数も増加することが予想されるが、実際には減少している。これは近年、<b>火災の危険度を低下させることができている</b>と見て取れる。</p> <p>まずは変化を正確に整理し、<b>何が功を奏しているのか分析することが、効果的な防火策を検討する上では必要</b>ではないか（住環境、防災品、住警器、消火器）。</p> <p>高齢化に伴い死者数が増加傾向にあるが、死亡理由が「発見の遅れ」よりも「体力的条件」によるものが多いのであれば、住警器や消火器が効果的とはいえない。また「逃げ切れなかった」の中で体が不自由な為に次いで延焼拡大の速さが3割近くを占めている。このような場合、自動消火・火災抑制装置等、個人の認識・身体能力に依存しない方法が効果的であると考えられる。</p>	<p>現状事例収集を行っている、住警器の奏功・不奏功事例や、アンケート調査等で今後詳細を分析して参ります。</p> <p>また、ご意見のとおり、自動消火装置等の有効性や普及方策等についても検討して参りたいと考えております。</p>
5	<p>本検討部会において、今後、介護事業者等と連携した取組を加える場合は、<b>高齢者が日常的に介護事業者等と接する機会がどの程度あるか</b>を把握するため<b>介護保険の第1号被保険者（65歳以上）と要支援認定者数及び要介護認定者数の合計の相関グラフを追加</b>してはどうか。</p>	<p>今後、データを追加してお示しします。</p>

## 議事2：住宅火災による高齢者の死者の実態についてのご意見

NO.	委員ご意見	事務局回答
1	出火原因でストーブが81歳以上で急増が気になります。ぜひアンケート質問にあるように <b>燃料別使用実態を確認したい</b> 。	アンケートに設問を追加します。
2	<b>高齢者についての「逃げ遅れ」の理由が判然としない</b> （住宅用火災警報器が役に立たなかったのか、連動型であればよかったのか、同居者がいればよかったのかなど）。 <b>「発見が遅れた」「判断力・体力の低下等」の病気・身体不自由とはどの程度か、その他とは何かなど改善策に直接結びつけ難い</b> 。「逃げる機会を失った」で消火しようとしてが多いが（「出火後再進入」でも同じ）、例えば <b>高齢者によっては消火器を用いた初期消火を敢えて薦めない</b> （とにかく逃げるよう薦める） <b>方々がいるのではないかと思われる</b> 。「着衣着火」でその他の火気取扱中やその他が多くを占めているが、内容が不明で効果的な広報に結び付いていないように思われる。このことから、今後 <b>火災報告取扱要領の見直しも含め、高齢者の住宅火災における問題点とその推移をよりの確に把握できるようにして</b> はどうか。	今回の検討結果を踏まえ、火災報告取扱要領の見直しについても今後検討して参ります。
3	出火原因別では81歳以上でストーブが目立ちますが、 <b>日常の暖房機器として何を使用しているかの把握が必要</b> と思います。エアコンなどの機器は、操作が複雑、多機能、電池が切れるとリモコンが使えないことなど、高齢層には使いにくさがあり、そのため簡易に使えるストーブを利用しやすい可能性。	アンケートに設問を追加します。
4	P5「『逃げる機会を失った』理由～消火しようとして」について、64歳以下に比べて高齢者の割合が高いのは、背景にどのような状況・事情があるのか。	加齢に伴う体力・認知能力等の低下により、初期消火が上手く行えなかった、適切な避難が行えなかった等の要因が推定されます。
5	過去5年間の高齢者の死者の実態で、生活実態調査にある <b>調査人数構成別死者数（性別、一人暮らし、高齢者のみ世帯、高齢者以外と同居世帯）が、今後の対策上必要ではないか</b> と思われる。	現時点では火災調査報告要領に基づく調査項目の範囲で取得できるデータのみとなるため、火災報告取扱要領の見直しについても今後検討して参ります。※参考として火災報告取扱要領の調査項目を提示します。
6	<b>男女比、世帯構成（独居、高齢者のみ、同居）があると分析しやすいように</b> 思う。	（NO.5と同じ）

## 議事2：住宅火災による高齢者の死者の実態についてのご意見

7	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P.1 「ストーブやその他が増えた」と見るよりも「たばこ(喫煙者)が減った」と見る方が自然ではないか。<u>喫煙率も調査して考察すべき。</u></li> <li>• P.6 P.2で注目している<u>高齢者の着衣着火だが</u>、理由の比率は0～64歳と変わらず、<u>高齢者に特徴があるとは見て取れない。</u></li> <li>• P.7 就寝の時間帯に多いということは全体で言えそうだが、9時と19時に多いという点は少し無理があるように感じられる。<u>移動平均グラフにする、またはわずか1時間や1%ずれれば目立たないデータであり、ばらつきの範囲内ではないか。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後、データを追加してお示しします。</li> <li>• ご指摘のとおり、着衣着火については、高齢者の死者数が多いという点に着目しておりますので、適切な表現に修正いたします。</li> <li>• 適切な表現に修正いたします。</li> </ul>
8	<p>出火原因に係る、<u>それぞれの「着火物」や「経過」についてもあったほうが良い。</u>出火原因に関連し、どのような経過で火災に至ったか等も今後の検討に必要であると考え。(ワースト3である「たばこ」、「ストーブ」、「こんろ」だけでもあったほうが良い。) <u>出火時間帯別死者割合(不明除く)のグラフで、就寝時間帯ではないが、12時、13時も81歳以上の年齢層が他の年齢層より高くなっている。</u>この内容にも触れたほうがよいと思われる。</p>	<p>「着火物」「経過」について今後、データを追加してお示しします。</p> <p>時間帯別のデータについては、24時間全体の傾向を確認する上でのデータのため、時間帯別の死者数等を追加したデータをお示しいたします。</p>
9	<p><u>年齢区分は国勢調査等の国の基幹統計に合わせた5歳刻み(~79,80~)にするのが望ましい。</u>年齢層毎の死者数の実数を資料3の冒頭に示すと良い。また、<u>性別の人数も示してもらいたい。</u>人口あたりの死者発生率は約1.5倍の差があり、生活実態に対応した対策を考える上で無視することはできない重要な差であると考え。<u>割合で示している表については、各グループの母数を行/列見だしに追記することが望まれる。</u>それにより、全体の中での当該分類の重要度の違いを理解し易くなる。死者発生経過を詳細に分析しているが、グラフを追っていくと、その<u>グラフがどの部分の内訳を示しているのか追えなくなるため、それを補完する情報。</u></p>	<p>年齢区分については、他の統計との比較を行う部分については検討します。</p> <p>また、年齢層毎の死者数を追記したデータを今後お示しします。</p>
10	<p>追加確認を要するデータは次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>住宅火災により死者が発生した住宅の住宅用火災警報器設置(鳴動)有無</u> (住宅用火災警報器の設置状況により更なる設置促進と、鳴動状況により維持管理促進につなげるため)</li> <li>• <u>住宅火災により死者が発生した住宅の世帯状況(独居・非独居)</u> (独居は、火災発生に気づきにくく避難するのに助けがないなどから時間がかかるため、独居が多ければ、一層早期覚知、初期消火の必要性を訴えられる)</li> <li>• <u>住宅火災死者の性別</u> (男女比の面でも大きな差があれば火災予防啓発に訴えかけることができる)</li> </ul>	<p>ご指摘を踏まえ、現状の火災報告データの抽出可能な範囲で、より細分化したデータを作成いたします。</p>

# 議事3：消防庁の取り組みについてのご意見

NO.	委員ご意見	事務局回答
1	<p>「住宅防火命を守る7つのポイント」で、「<b>住宅用火災警報器を設置する。</b>」は、<b>設置が義務化された現状では表現を見直してはいかがか。</b>「<b>隣近所の協力体制を作る。</b>」は重要と考えるが、特に都市部では難しいと思われる、うまく機能している<b>有効事例の紹介を進めて</b>はどうか。</p> <p>「住宅火災による死者を防ぐための考え方」では、議事2の意見欄でも記載したが、<b>一部の高齢者には高齢者自身での初期消火は行わずに、素早く避難する</b>（そののち周囲に助けを求める。）<b>としてはどうか。</b>早く知る・<b>気づくための連動式住宅用火災警報の普及、燃え広がらせないための（防災品だけでなく）住宅用スプリンクラーの普及が、それぞれ避難困難な高齢者にこそ必要</b>と思われる。</p>	<p>有効な協力体制の構築、早期避難対策については、「7つのポイント」の改正に当たっての課題として検討して参ります。</p> <p>また、ご意見のとおり、自動消火装置等の有効性や普及方策等についても検討して参りたいと考えております。</p>
2	<p><b>住宅用火災警報器について、高齢者世帯住宅への継続的なメンテナンス・電池交換などについて、消防機関が対応できるシステムがあるとよい</b>と思う。</p>	<p>消防機関のみでの対応では困難な事が予測されるため、関係団体等も協力し対応を検討して参ります。</p>
3	<p>資料3のP5「逃げる機会を失った理由別件数・割合」をみると、一番多い理由は「消火しようとして」となっている。<b>消火器による自らの消火ではなく、住宅用の自動消火装置の推奨</b>を検討してはどうか。（自動消火の装置としては住宅用スプリンクラーも考えられるが、既設の住宅に後から設置することは難しい）</p>	<p>ご意見のとおり、自動消火装置等の有効性や普及方策等についても検討して参りたいと考えております。</p>
4	<p>7つのポイントを守れる方は問題ないが、守れない方がたくさんいる。<b>住宅防災診断の普及を</b>してもらい、<b>消防の方にアドバイスもらうことは、とても有効</b>であると思う。</p>	<p>ご意見のとおり、防火に関するアドバイスを受ける機会を増やすことについては、重要なものと捉えております。</p> <p>住宅防災診断を含め、効果的な取組について検討して参りたいと思います。</p>
5	<p><b>取り組みの何が効果的に働いているかの分析</b>をもう少し行う必要がある。</p>	<p>今後の課題として検討して参ります。</p>
6	<p>「<b>危ないと判断したら素早く避難する（早期避難）</b>」だけが<b>7つのポイントのどの内容ともつながっていない</b>が、追加等は検討するのか。</p> <p>資料3でも、「逃げ遅れの理由」で「判断力・体力の低下等」や「逃げ切れなかった」が高く、危ないと判断できるようにすることが必要だと思われる。</p> <p><b>住宅防火・防災キャンペーンについてポスター等で広報しているが、認知率が低いと感じる。どれだけの認知率があるか把握しているか。</b>また、<b>店頭で安く住宅用防災機器を購入できるキャンペーンを実施</b>する等のさらなる展開が必要と思われる。</p>	<p>今後、早期避難対策について、「7つのポイント」への追加を検討して参ります。</p> <p>また、「キャンペーン」のあり方についても見直しを行う予定です。</p>

### 議事3：消防庁の取り組みについてのご意見

ガスコンロについては、消安法令でセンサー付コンロのみが販売可能となり実質的にセンサーなしコンロは順次使えなくなっていく状況から、**「離れる時は必ず消す」の精神論ではなく、「センサー付コンロを使用する」ことを加え**、高齢者の住居におけるセンサー付コンロへの置き換えを積極的に推進する姿勢を示す必要があるのではないかと考える。消安法がありながら、そのことに触れないと、旧来のセンサー無しコンロを使い続けることを暗示的に消防が承認していると受け取られかねないことを懸念する。

- 7 英国の子供向け防火教育では、安全な避難の確保の観点から、部屋の床にもものを放置しないことをとても強調している。資料6のアンケート項目案にも物が多いことや乱雑であることに対する問題意識が読み取れる。**早期避難、延焼拡大防止の項目に対応させて、部屋の物を減らす、整理整頓する等を加える**方向で検討してはいかがか。

城之崎温泉街火災でも、一人ぐらし高齢者宅の物が膨大にあって消火に時間を要したことや、ゴミ屋敷も社会問題になっていたり、断捨離や終活が流行っているため、受け入れられやすいタイミングかと考える。

住宅火災による死者を防ぐため **「住宅防火いのちを守る7つのポイント」に追加する項目として、「整理整頓」が必要と考える。**（整理整頓を推奨することにより可燃物が減少し、「火災を発生させない」、「燃え広がらせない」効果と避難の障害となる要素を除去することができる。）

- 8 ・防火防災キャンペーンに介護支援専門員協会だけでなく**高齢者向けサービスを提供している企業を追加することも効果的である**と考えられる。（例）  
（一社）日本在宅介護協会や高齢者向けの宅食、家事代行サービスを実施している企業等

安全装置の付いた機器の使用や避難対策については「7つのポイント」の改正や「キャンペーン」の見直しの際に検討して参ります。

今後、早期避難対策について、「7つのポイント」への追加を検討して参ります。  
また、協力団体の充実等、「キャンペーン」のあり方についても見直しを行う予定です。

## 議事4：検討の進め方・スケジュールについてのご意見

NO.	委員ご意見	事務局回答
1	<p>アンケートだけではなく、<b>実際に高齢者宅を訪問・ヒアリングを行って、より実態の把握ができないか。</b>たとえば「消防研究所報告」第80号(1995年)掲載の「住宅火災危険からみた一人暮らし高齢者の居住実態」(鈴木恵子、関澤愛)および「日本建築学会技術報告集」第16巻第32号(2010年)掲載の「一人暮らし高齢者の住宅火災危険要因に関する考察」(鈴木恵子ら)では、1994～95年に実際に独居の高齢者を訪問しヒアリングした内容から、住居内の火災危険要因や高齢者の防災意識を調査している。この調査からすでに25年が経過していることから、<b>実際の住居内の様子や高齢者の防災意識の変化について、把握できないか。</b>(コロナ禍の中で訪問は難しいかもしれないが)現在の住居内の様子や高齢者の防災意識をヒアリングできれば、そこから防火対象となる高齢者の住居モデルができて、より細かい検討が可能になると思う。</p>	<p>アンケートは、全国の高齢者の生活実態を広く調査をすることにより、一般的に高齢者の生活に潜む火災リスクを抽出し、対策を講じていくことを目的としています。</p> <p>ご意見のとおり、戸別訪問等による居住実態の調査を通じて、詳細な分析を行う事も有効なものと考えられますが、今回は全国的な傾向を把握する必要性から、アンケート調査の手法をとらせて頂きました。なお、調査方法については、郵送によるものを予定しております(外部委託)。</p>
2	<p><b>アンケート調査をする上での目的をもう少し明確にすべき</b>ではないか。例えば、住警器は有効だったのか、キャンペーンで訴えた内容がもし徹底していたらどの程度防げたのか。効果はあるが足りないのであればもっとアピールすべきである。効果がないなら別の策を検討すべき、また問題点は別にあるというなら、その足りない部分はどこかという検討を行う情報が得られるようなアンケート調査にすることで見えてくることもあるのではないかと。</p>	<p>(NO.1)と同じ</p>

# 議事5：高齢者の生活実態調査アンケート（案）についてのご意見

NO.	委員ご意見
1	3の生活的習慣、「調理器具」で、使用している燃料を調べてください。 ①ガス ②電気（IH含む） ③カセットコンロのみ
2	Siセンサーコンロの設置
3	移動式の暖房器具と可燃物との距離をどの程度確保しているか
4	住宅用火災警報器の管理状況
5	隣近所の協力体制の状況も加えてはどうでしょうか。
6	質問文の語尾が統一されていない（ですます調）のでご確認ください。
7	<p>【高齢者の特性について】</p> <p>1：身体的特性について</p> <p>問2について、「①有」の場合は自由記載欄があってもよいかもしれません。疾患や障害について聞くかは悩みます。片麻痺やパーキンソン病などがあると歩行能力が大きく低下することがありますが、そこまで聞くべきか。</p>
8	<p>2：社会的特性について</p> <p>「アプリ」という言葉が何を示すのか理解できない人もいるかもしれません。</p>
9	<p>【高齢者の居住環境について】</p> <p>問32：洗濯物の乾燥</p> <p>・炎を使う機器が対象でしょうか、エアコンの風を当てる場合も含むのでしょうか。</p>
10	<p>問33：就寝時のストーブ</p> <p>「寝具が触れると出火危険のあるストーブに該当しないストーブ」を使用している場合は「あてはまらない」でよいでしょうか。</p>
11	<p>問34：防災品の使用</p> <p>「防災品かどうかわからない」の選択肢も必要と思います。</p>
12	<p>問1）身体的特性</p> <p>設問および回答項目だけ見ると、家族や介助者に対する質問票かと思います。</p> <p>高齢者本人への協力（記入）をイメージした際、主催者がどのような人に答えてもらおうと思っているのか、とても違和感（距離感）を感じます。</p> <p>①自力歩行 ②壁伝い ⑥準寝たきり ⑦寝たきり という表現について、高齢者本人に対する選択項目の表現として、別の表現はないのでしょうか。</p>
13	<p>問4～9）社会的特性</p> <p>どのようなことを「社会的特性」としてイメージしているのでしょうか。</p> <p>地域との関わりの有無、介護保険の利用状況、（居住形態）と本件に関連する情報および意識の差につながるとか</p>

# 議事5：高齢者の生活実態調査アンケート（案）についてのご意見

14	自治体（市民啓発）、親族（主に日常会話、家族の意識）、ケアマネ（専門家による指導、業務の一環）を同じに聞くことについて疑問 一例ですが、高齢者の暮らしから考えてみて 防火について意識しているか→情報はどこで手に入れているか→地域の防災訓練に参加しているか（あることを知っているか、参加しているか）
15	（問6／戸別訪問）居住形態により異なりませんか？（マンションでは必ず探知機の確認があるが、戸建て、アパートではないのでは・・・）
16	「アドバイス」という言葉は、どのような意味で使われているのでしょうか。 情報提供、直接指導、文書指導 等 「消防職員のアドバイス」がイメージしにくいこと、アドバイスを手紙やインターネットで受けることも同様。
17	問10～）生活的特性 調理器具についての質問は不要ですか？近年、高齢者の中でも、また、高齢者を対象に販売される住居において、IHを使っている人も増えていると感じています。
18	問13）「IH」に関する「危険事項」はありませんか？（IHは万全ですか？）
19	問27）電気器具の買い替えについて、「定期的」ではなく、より安全、便利な物が販売されたから、買い替えているのではないのでしょうか。
20	問34～）居住環境 「防災品の使用状況」について、どのような物を使用しているか選択（○）するのはいかがですか。寝具、じゅうたん、カーテン、エプロンとか
21	問40「問38③④」
22	問46～）防火意識 回答項目の順に意図はありますか？ ④③②①の方が良いと思います。
23	アンケートが全52問なのは多く感じるので、要点に絞った方がよいと思う。
24	高齢者へのアンケートの実施方法については検討が必要に思う。防災対策に積極的な方は答えてくれるが、火災の危険性のある方は、答えないと思う。ケアマネなどをお願いをして、アンケートを促すようなことも必要に思う。
25	金額についての質問項目があってもいいかと考える。例えば、「どの程度の金額を火災対策に使えるか（使っているか）」
26	問2、問3の質問の語尾は「ありますか」となっているが、他の質問（例えば問4）は「あるか」となっている。統一したほうがよい。
27	設問において、できるだけ平易な表現を用い、消防用語には補足説明を加えるなど、回答者が設問を理解しやすくなるよう配慮したほうがよい。 例：防災品、住宅防火診断

# 議事5：高齢者の生活実態調査アンケート（案）についてのご意見

28	<p>【質問の追加等】</p> <p>「住宅用火災警報器の設置状況について」を問う設問を追加し、現状分析に活用してはどうか。</p>
29	<p>「日常的な近所づきあいについて」を問う設問を追加し、共助の可能性や身近な人による日常的な防火に係るアドバイス機会の現状分析に活用してはどうか。（例）日常的な町会や近所、別居の親族との付き合いの有無、頻度等</p>
30	<p>問4、問7において、「ある」と回答した方に対し、受けたアドバイスの内容を確認し、現状分析に活用してはどうか。</p>
31	<p>問39において「常に家族（同居人）等の助けがあるため」、問40において「家族（同居人）等の助けがないため」の選択肢を追加してはどうか。家族の支えが自信（安心）につながるということが考えられる。</p>
32	<p>調査項目が詳細かつ多岐に渡っており、項目を減らすなど工夫が必要ではないかとの印象を持ちました。また、どのような実施方法をお考えでしょうか。オンライン調査の場合、回答者の属性が偏ることが懸念されます。最も生活実態を知りたい、住宅火災高リスク層の回答は得られない可能性が高いのではないかと懸念します。</p> <p>住居の状況に関する項目の追加</p> <p>住宅火災による死亡リスクは、経済状況によって異なることは明らかですが、所得や資産の状況を尋ねることはできません。そこで、居住状況を尋ねることで、回答者の経済状況を間接的に見当を付けることができます。例えば、（自己または家族等所有／賃貸／公営）（木造／鉄骨造／鉄筋コンクリート造）（平屋／2階建て／3階建て以上）（建物の築年数）（占有面積）など。住宅・土地統計調査の区分を参考にすると、回答者の属性を国内の状況と対比させることもできて良いように思います。</p> <p>法令で義務化している事項については、詳細に聞き取り、回答者の法令への対応状況を明らかにする必要があると考えます。</p>
33	<p>ガスコンロの種類 （安全センサー無し、1口のみセンサーあり(消安法改正前)、全口センサーありなど） →全口センサー有りに置き換えない理由（値段や使い勝手など、. . .）</p> <p>住宅用火災警報器の設置と更新状況 （居間、寝室、台所など本来設置してほしい場所にあるのか、それとも1つだけ付けているのか、電池更新はしているかの3つの視点）</p>
34	<p>追加修正の提案</p> <p>問23 ④仏壇が除外されています(周囲の装飾を..など?)。また、着火より「焦がした」が多いと思うので、これを拾い上げるようにしたい</p>
35	<p>問47 隣家からの延焼</p>
36	<p>問48 ケアマネージャー（やホームヘルパー）がしてくれるなら利用してみたい（問4に呼応させる項目を置きたいところ）</p>

## 議事5：高齢者の生活実態調査アンケート（案）についてのご意見

37	<p>●高齢者の特性について 2 社会的特性について 問4 介護事業者等との日常的な接触機会の多さを知るため「親族、ケアマネージャー、ヘルパー、宅食配達員などが家を訪れる機会はあるか」「その頻度は週に何日ほどあるか」を追加し、介護事業者等との関りがどの程度あるかどうか調査してはどうでしょうか。</p>
38	<p>・喫煙状況について 問22⑤「寝室で喫煙していたところ寝具等に火種が落下した」は、寝室でない場合（居室のソファ上など）もあるので、「寝室で」を抜くか、寝たばこを指していることが分かるよう「寝転びながら」に変更してはいかがでしょうか。また、ごみ箱に捨てた吸い殻の再燃による火災もあるため、選択肢に「吸い殻がごみ箱内で再燃した」を追加してはどうでしょうか。</p>
39	<p>●高齢者の居住環境について ・問35 共同住宅の場合の選択肢は？</p>
40	<p>・住宅用火災警報器の維持管理（点検・交換）が出来ているかの質問の追加。高齢者宅の住宅用火災警報器の維持管理（設置含む）に対する取組につなげるため</p>

※各意見をアンケート内容へ反映し、調査を実施した。